

令和5年度 第2回北海道農業・農村振興審議会 議事概要

1 日時：令和6年2月1日（木）13:30～16:03

2 場所：TKP札幌ビジネスセンター赤れんが前 5階 ホール5C

3 議題

(1) 報告事項

○「北海道指定有害動植物等総合防除計画案の策定」

・資料1-1～2により説明

【委員からの主な意見等】

・なし。

(2) 意見聴取

○「食料・農業・農村基本法の見直し状況等」

・資料2-1～3

○「第6期北海道農業・農村振興推進計画の中間点検」

・資料3-1～2及び資料3-《参考》により説明

【委員からの主な意見等】

- ・新規就農に関して、新規就農したい場合はGoogle検索をすると聞く。担い手育成センターの方のホームページは大変素晴らしいと思いましたが、こういうセンターの方がアウトリーチ活動として、小学校から大学まで学部関係なく多くの学生と接点を持ったら良いのではないですか。
- ・国が出された12月27日の方向性でも、価格形成をどうするのか、需給のバランスが取れたら価格は上がらないと思うので、北海道としては、その経営というものにきっちりと国に対して、もっと切り込んでいただきたい。
- ・私は、指導農業士として、これから新たに担ってくれる若い女性への指導農業士を応援していきたいとも思いますし、そういうところに入ることによって、女性もすごく勉強することは増えると思います。
- ・今の価格形成の仕組みというのは、北海道は本当に不利じゃないかと思っていますので、是非、そのところを消費者も含め道民全体で進めていってほしい。
- ・中間点検を見まして、数値目標に対して、現状評価はしっかりされ、的確な課題抽出と、それを踏まえた考察が示されている。引き続きめざす姿の実現に向けて取組を続けていただきたい。
- ・各振興局の取り組みの中で、オホーツクの方から上がっていた課題として、新規就農者のニーズに応じるため、多様な農業経済の提案を上げている。ただ、新規就農者から見れば、小規模から入るのはリスク回避にもなる。そういったことについても情報共有化して、多様な人材を確保していただきたい。
- ・非常に多くの技術開発がされ、これから期待を持てるが、最前線で進めていくのが農業改良普及指導員だと思うが、多様な仕事をしなきゃいけない。6次化、スマート農業など優秀な人材が求められることは間違いない。ただ、採用予定者数に対して採用者数が少ない。人材確保をなお一層強めていただきたい。
- ・環境に配慮した取組ということで、色々推進されているのは分かったが、農業の方は、減農薬から有機農業まで色々表示があるけれども、アニマルウェルフェアに取り組みされている生産者もいると聞きます。認証までは取っていなくてもそれに近い生産者、そういう生産方法になっていることがメリットになればいいかなと思います。
- ・不安な外国産はあまり輸入しないことを希望します。消費者が安い物を希望されるのであれば別ですけども、できるだけ外国産でも安全な物があると思います。そういう物を輸入していただきたい。

- 中間点検では、地球温暖化により夏の高温多湿により作物が大変ダメージを受けています。今後対応できるような作物の品種改良が必要になると思いますが、展開の方向にも盛り込まれておりますので、今後の課題になるかと思えます。
- 稲作は、北海道米は本州よりもとてもおいしい米が採れるようになってきています。最近の子どもたちは小麦アレルギーの子がとても多くなっているため、米粉で代用するとか、その活用するために、増産をするというかなと思います。
- 鳥インフルエンザの侵入により卵の価格がすごく高騰して、3倍ぐらいになりました。病気に掛らないような良い薬の開発。また、殺処分その他に何か良い方法がないものかと思えます。
- 北海道が中心となり、関係する各団体などとオール北海道で是非、それぞれの課題に、一緒に努力をしていく体制を作っていければと思います。
- 令和8年度までに畑地化を検討している農業者の方もいます。水田地帯において、畑地化したほ場が点在していくと、農地の集積にも影響し、畑地化した水田の経営者、耕作者が変わっても水活交付金の対象水田に戻すことができない。農地の流動化にも影響すると懸念されます。
- 今後の用水路等の施設の整備保全、維持管理を心配する声が多く上がっています。これらの課題について、北海道の水田農業における中長期的な課題として、是非、位置づけをお願いします。
- セーフティネットをどうしていくかは非常に重要。現在、収入保険等は色々ありますが、適正な価格形成が議論は中々難しいという話。価格によらず農業経営を支えていく生産手段は、適正な価格形成のオルタナティブ（代替案）として、色々な政策手段があると思うので、総合的に考えていくことが非常に重要です。
- 国は、生産水準を維持して、発展させるということがうたわれているが、北海道農業においてもそういう意味では人口流出、減少が続くと思うのですけれども、そういう中で、生産水準を保っていったって発展させていくには、やはり生産性の向上だったり、いろんなことをしなければならない。北海道農業としては、規模の経済性の追求によって、労働生産性を向上させていくことが不可欠と思えます。
- 農地集積ですが、一般の財の市場と違う。市場メカニズムが機能すれば、経営効率の高い農家に農地が集積していくことで問題ないが、水田の畑地化の農地流動化の障害となる。これは非常に重大な問題で、解決していかなければならない。
- ビート（てん菜）の問題ですが、自給率で34%ぐらいと聞いていますけれども、ビートは北海道でしか作っていない作物です。是非、道庁の方も安定生産、それから拡大に向けて頑張ってください。
- 本日の中間点検結果については、皆様の御意見などを踏まえて概ね順調との主旨でまとめていただければと思います。

以上